

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	新潟大学				
取 組 名 称	使えない「つもり学習」からの脱却				
取組学部等	工学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22024	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	専門基礎	初年次教育			
キーワード	つもり学習, 工学的リテラシー, 初動教育, チームリーダー, 失敗・成功体験				

<選定理由>

本取組は、特に工学部において教育と研究との融合を図りつつ、学生の実践的な学習成果を確保するためのプログラムとして高く評価できる。特に、4学年を見越したカリキュラムが考えられている点については、学生のこれまでの知識観、学習観を刷新して実践力のある教育を目指すという観点から見て、大きな意義を有するものである。また、学部全体でこれまで取り組んできたことの率直な反省が活かされており、現代 GP 事業で新設した科目を継続して積極的に改善しようとするなど、今後の展開についても一定の評価ができる。

ただし、学生を実際どのような課題に取り組ませ、「失敗から学ぶ」ことができるための活動をどう組むかなど、具体的なカリキュラムはまだ十分工夫の余地があり、今後の課題と考えられる。取組実施に当たっては、申請の理念に対応しつつ、着実にその成果を上げることを期待する。

取組の概要【1 ページ以内】

大学入学前から染み付いている「知識の暗記だけで使えるつもりになっている」という“つもり学習”の習慣を初年次教育の段階で早期に気づかせ，“つもり学習”の悪癖を直しながら，それによって“知識の応用力（工学的リテラシー）”を効果的に身に付けさせることを目的として，新たな初動からの工学教育プログラムを実施する。その概念図を図1に示す。

初動教育として，失敗しつつもそれを強い意欲で乗り越えて成功する体験が意図的に組み込まれた科目（工学リテラシー入門）を1年次に新設する。これにより，学生は“つもり学習”に早期に気づき，知識の暗記であった勉学姿勢が改まる。2，3年次では，デザイン科目に“つもり学習”からの脱却度を評価する手法を新たに導入し，これを学生にフィードバックすることで“つもり学習”の悪癖を自ら直すように誘導する。4年次では，初動教育への指導的立場での参加を含む科目（卒業研修）を新設し，“つもり学習”からの完全な脱却を図る。教員は概念図に示すように「やってみせ」～「誉める」ことで，学生に失敗を乗り越えられる強い意欲と自信を持たせる。本取組で用いる教育方法は，教育訓『やってみせ，言ってみせ，させてみて，誉めてやらねば，人は動かじ』の理念に繋がる。これを「やってみせ，させてみて教育」と呼ぶ。

以上のような新設科目を中心としたカリキュラムと教育手法の有機的結合によって，高い工学的リテラシーを涵養する。

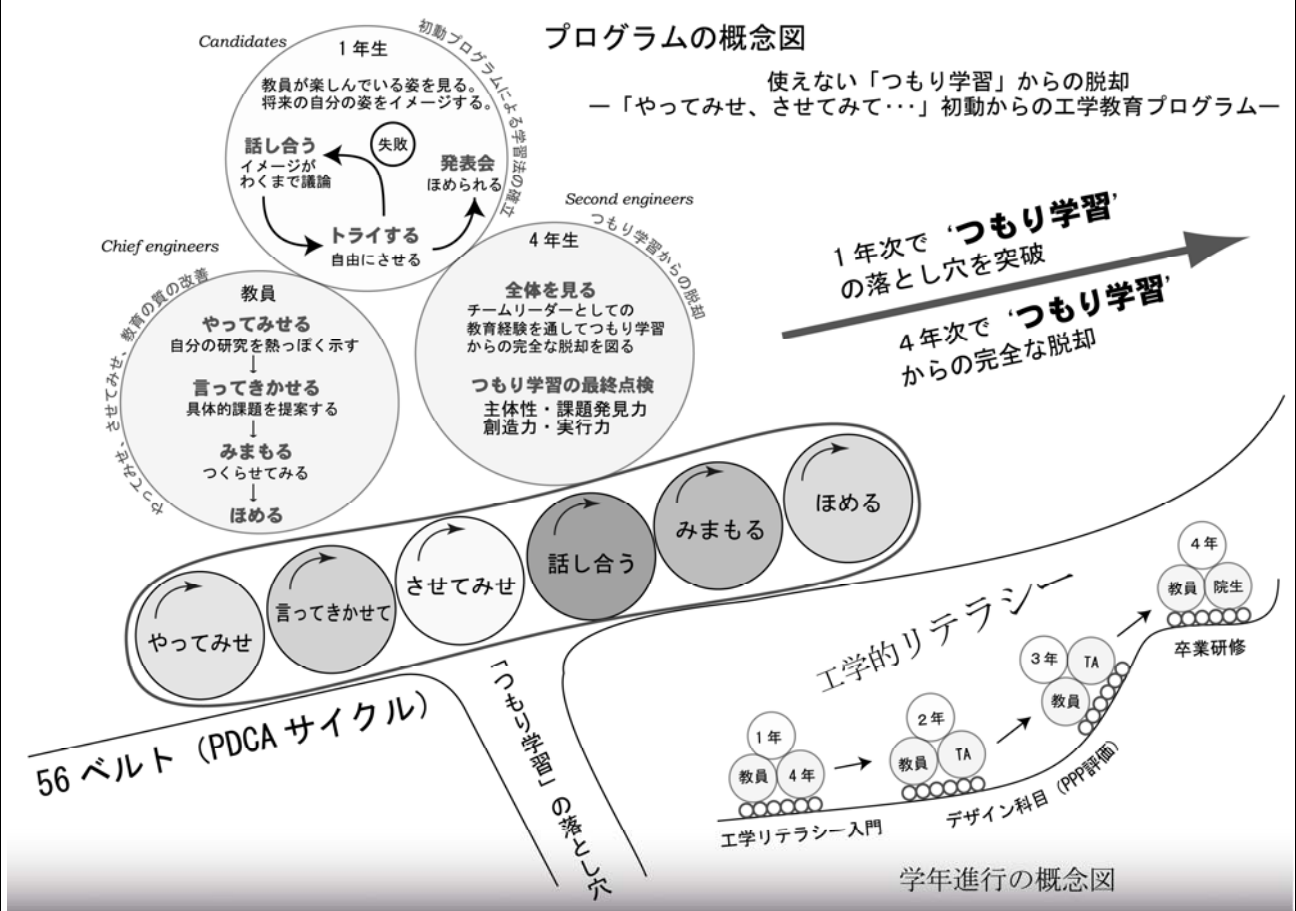


図1. 概念図 使えない“つもり学習”からの脱却